2018　年度　（平成　30　年度）　学校評価自己評価表

大門　中学校区	校番	福山市立　大津野小　学校
	最終更新日	2018年(平成30年)4月2日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
・子どもと向き合う時間の確保 ・地域行事への参加等により地域を愛する児童生徒の育成	・思考力・表現力が弱い。 ・自尊感情は伸びてきたが，主体的に行動する力は弱い。 ・目的意識をもった地域行事等への参加が不十分である。

育成する力 (21世紀型“スキル＆倫理観”)	課題発見・解決力　思考力・判断力・表現力　主体性・積極性　共感力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え，学び，自尊感情の高い生徒
中学校区として統一した取組等	・カリキュラムマップに基づく「見せる・見る授業」を実施する。 ・レーダーチャートを活用し，学級力や自尊感情を高める取組をする。（年４回アンケート実施）

Ⅲ　自　校

ミッション
見えない「人間の根っこ（学問・社会性）」を育てる

学校教育目標
大きく広げる知識　積み上げる伝統　のばす体力

現　状
〈児童生徒〉 〇自分の言葉でめあてに対するまとめや振り返りを書くことができる児童が増えたが，基礎学力や活用力・表現力は低い。 〇給食指導の強化により，給食残菜率や食器破損率が減少した。 △学級会議等により学級力や自尊感情は向上してきたが，自ら考え，主体的に動く力はまだ弱い。 〈授業〉 〇課題追求型のめあての設定や評価基準の提示を通して，単元におけるその１時間の役割を意識した授業が増えた。 △児童が課題を発見したり，疑問に思ったことを追求したりする授業が少ない。児童が主体的に学び，友達と考えを広げたり深めたりしながら思考力・表現力を培う授業づくりが必要である。

育成する力 (21世紀型“スキル＆倫理観”)		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力
めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ，生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち，絵や言葉，動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
	3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し，生活体験や既習事項，収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち，絵や言葉，動作など適切な方法を選択し，表現している。	集団の中で，自分がやるべきことに気付き，進んで行動している。	相手の気持ちを考え，行動している。
	5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し，生活体験や既習事項，収集した事項を根拠にして解決し，新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに，自分の考えを持ち，目的や意図に応じて，論理的に説明したり，適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で，相手や場の状況に応じて，自分でより高い目標を持ち，自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き，相手の立場を尊重し，行動している。

研究	教科等	国語科・特別活動
	主題・内容等	主体的に学び，思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～
めざす授業の姿		自ら考え，学び，友達と協働しながらともに高まり合う授業 ・自分の考えを根拠をもとに表現する授業 ・児童が互いに学び合い，考えを広げたり深めたりする授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　大津野小　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力を高める【思】	研究授業を中心に部会で，教材研究やカリキュラムマップをつないだ単元づくりをする。	国語科の単元テストの全観点において，60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】									
						算数科の単元テストの「技能」観点において，60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年15 %未満にする。【単元テスト】									
			見直し	自ら学び，思考力・判断力・表現力を育てる【思】	思考やまとめの場面で教科用語等キーワードを提示する。	振り返りの視点に沿って１時間の学びを実感できる児童を低学年60%以上,中学年70%以上,高学年80%以上にする。【児童ノート】									
2	主体性・積極性		見直し	自ら課題を発見し，課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】【共】	月1回OPT（大津野プロジェクトタイム）を実施し，つけたい力と取組を決め，振り返りを掲示する。	学級力レーダーチャートにおいて「目標達成力」を85%以上にする。									

2	たくましい体の育成		継続	めあてをもち，自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について，家庭学習や体育の準備運動に取り入れる。	新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体力テスト】									
3	教職員の授業力向上	★	見直し	児童が自ら考え，学ぶ授業をつくる【課】【主】	1人３回以上「見る・見せる授業」を行う。	友達と話し合う活動を通して，「自分の考えを広げたり，深めたりすることができている」と肯定的評価する児童を60%以上にする。【児童アンケート】									
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	地域に愛着をもち，ほこりをもった児童を育てる【共】	年２回以上地域の人とふれあう授業をつくる。	「大津野が好き」と言える児童を80%以上にする。【児童アンケート】									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。